

事業所名

スタディサポートMJ狭山

支援プログラム（参考様式）

作成日

2024 年

4 月

1 日

法人（事業所）理念

- ・子ども達が安心できる場所の提供
- ・子ども達の選択肢を広げる支援
- ・家族・学校・福祉サービス事業者との連携

支援方針

【共通】

■ 子どもの 5 年後・10 年後・20 年後の姿をイメージし、ご家族様・関係者の方々と共に共有しながら支援を行います。親の想い、私たちの想い、子どもの現実の姿と共に、その子どもが何を望んでいるのか、どのような「夢」や「希望」があるのかが一番重要になります。例え、その子の夢が突拍子もない事であったとしても、可能性は「ゼロ」ではなく、可能性を覆い求めた先に「新しい夢」があるはず。私はそこに寄り添いたい。私達は、子ども達の可能性を信じて一緒に「方法」「手段」「環境」を考えます。

■ 子どもの可能性を広げ、選択肢を増し、自己決定を行う事を大切にします。

- ・その子に合った方法を考えて環境を整えます。
- ・少しでも選択をする幅が広がられる様に、その子に必要な力を付けて行きます。
- ・新しい選択肢が無いのか、作り出す事は出来ないのかを考えます。

■ 学習サポート

学習の支援を行います。学校での課題や個別の課題を必要に応じて一緒に取り組みます。勉強そのものを教えるだけではなく、その子が何につまずいているのが原因を紐解き、集中して学習 できる環境と一緒に考えていきます。また、受験に向けて面接の練習を行っていきます。

■ 話し合いを大切に

大人になる為に必要な準備は「自分を肯定し続ける心」です。しっかりと自分を肯定できる心が出来ていれば、困難に直面しても、挫折して落ち込んで自分を立て直らせる事が早くできます。職員とのコミュニケーションの中で「自分自身と向き合う事」や「相手と向き合う事」を学び、大人になる準備をしていきます。

【1部】対象：小学5年生～高校生

■ 「出来るを深める」～プロセスを紐解く～

「出来るを深める」をコンセプトに自己肯定感をさらに高め「学習」「練習」「実践」を少人数のグループで行い、学期毎の課題に取り組み理解を深めていきます。

【2部】対象：中学生、高校生

■ 「自分で考えて発見する」～職員と歩むPDCA～

「自分で考えて発見する」をコンセプトに職員と1対1で今の自分を客観的にみて新しい自分を発見していきます。技能そのものの習得が目的ではなく、習得するまでのメカニズムを考える脳を作る事により、自分を肯定しながらも出来ない自分を見つめながら、立ち向かう心を作ります。職員とのコミュニケーションの中で「自分自身と向き合う事」や「相手と向き合う事」を学び、大人になる準備をしていきます。

営業時間

11 時 00 分から 20 時 00 分まで

送迎実施の有無

あり なし

支援内容

健康・生活

この領域では、子どもたちの日常生活を自立して送るための基礎的な力を身につけることを目指します。

- 【サポート内容】
- ・基本的な生活習慣の習得（食事、排泄、着替え、歯磨き、手洗いなど）
  - ・衛生管理の指導（清潔な環境作りや身だしなみの整え方）
  - ・健康維持・増進（正しい運動や水分補給、習慣の形成）
  - ・感情コントロールの支援（ストレスマネジメントやリラククス方法の指導）
  - ・自己管理能力の向上（持ち物の整理整頓、時間管理の練習）

- 【目的】
- ・日常生活に必要な基本的な生活習慣や自己能力を身に付け、健康で自立した生活を送れるよう支援します。

運動・感覚

この領域では、身体機能や感覚統合の発達を目指し、運動能力を高めるための支援を行います。

- 【サポート内容】
- ・大運動の発達支援（歩く、走る、跳び、バランスをとる）
  - ・微細運動の向上（箸やペンの持ち方、手指の緻密性を高める活動）
  - ・リズム運動（ダンスや音楽に合わせた運動）
  - ・感覚統合の支援（触覚、前庭覚、固有覚を活用した活動）
  - ・ボディイメージの向上（自分の体の使い方を理解する活動）

- 【目的】
- ・大運動や微細運動を強化し、体を思い通りに動かす能力を高めます。また、感覚刺激育成機能心身の安定を図り、運動を楽しみながら社会活動への適応力を養います。身体を使った成功体験を重ね、自信を育てます。

本人支援

認知・行動

この領域では、学習の基礎となる認知能力を高めながら、適切な行動を身につけるための支援を行います。認知の発達や、ルール理解・状況判断力を育てます。

- 【サポート内容】
- ・記憶力・注意力の向上（カードゲーム、パズル、メモリワーキングトレーニング）
  - ・論理的思考の育成（偶然関係を理解するゲーム、問題解決トレーニング）
  - ・正しい行動の指導（場面に応じた行動の選択）
  - ・自己のコントロールの強化（衝動抑制や感情調整の練習）
  - ・課題に取り組む力の養成（目標設定と達成感の経験）
  - ・仮想通貨を使用し、お金を「稼ぐ」「使う」「貯める」を体験する

- 【目的】
- ・思考力・記憶力・判断力などの認知機能を向上させ、正しい行動選択ができるよう支援します。課題解決力や集中力を養い、学習や社会生活の基盤となる能力を強化します。また、場面に応じた行動の仕方を学び、自己制御力を高めることで、トラブルを減らすために人間関係を築けるようになります。

言語 コミュニケーション	<p>この領域では、言葉の理解や表現力を高めることを目指し、コミュニケーション能力を養います。</p> <p>【サポート内容】 語彙力の向上（単語カード、読み聞かせ） 会話のキャッチボールの練習（質問・応答の練習） 自己表現の強化（自分の意見や気持ちを伝える練習） 非言語コミュニケーションの理解（ジェスチャーや表情の読み取り） 社会的コミュニケーションの指導（挨拶、お願い、謝罪などの基本スキル）</p> <p>【目的】 言葉の理解や表現力を高め、議事的なコミュニケーション能力を育てます。 その間の増加や会話のキャッチボール、人と関わり楽しさを体験し、自己表現力を強化します。</p>		
人間関係 社会性	<p>この領域では、友達や家族、学校の先生など、他者との関係を根拠に築くためのスキルを身につけます。集団生活の中で正しい行動ができるように支援します。</p> <p>【サポート内容】 ・協力やルールの理解（集団遊び、グループワーク） ・対人関係のトレーニング（友達作りの方法、トラブル解決法） ・感情のコントロール（怒りの調整、ストレス対処法） ・役割の理解（役割分担や責任感を持つ活動） ・社会的マナーの習得（公共の場でのマナー、礼儀作法）</p> <p>【目的】 ・他人との関わり方を学び、集団生活の中で正しいコミュニケーションが得られるよう支援します。 友達との関係づくりやルールの理解、感情のコントロールを習得し、議事的な対人関係を築く力を養います。</p>		
家族支援	<p>子どもたちの成長には、家庭での環境や関わりが大きな影響を与えます。そのため、放課後等デイサービスでは、保護者や家族への支援を取り組み、家庭と連携しながら子どもたちの発達を支援します。</p> <p>【サポート内容】 ・個別面談・相談支援（育児の悩みや発達に関する相談対応） ・家庭での関わり方のアドバイス（声かけ・遊び・学習支援の方法） ・ペアレントトレーニング（子どもとの関係構築や対応スキルの向上） ・家族同士の交流会・勉強会（保護者向けの情報共有やネットワーク構築） ・きょうだい支援（障害のある子どもの兄弟姉妹への心理的ケア）</p> <p>【目的】 保護者が子どもの成長を正しく、正しいサポートができるよう支援し、家庭全体で子どもを支える環境を作ります。</p>	移行支援	<p>子どもたちは成長とともに、次の段階（小学校→中学校→高校→就労・社会生活）へと進んでいきます。移行支援では、各成長段階に応じた準備を行い、スムーズな環境移行ができるようサポートします。</p> <p>【サポート内容】 ・進学・進路相談（学校選択や適応支援） ・職業体験・実習の協力（企業・作業所での実習） ・日常生活スキルの向上（通学・通勤の練習、金銭管理など） ・ソーシャルスキルトレーニング（SST）（社会に必要な対人スキルの習得） ・関係機関との連携（特別支援学校・就労支援事業所との情報共有）</p> <p>【目的】 ・将来の進学・就労に向けて、正しいサポートを行い社会の中で自立できる力を養います。</p>
地域支援・地域連携	<p>地域社会の中で自立できるよう、地域の関係機関や企業、学校との連携を強化し、支援の幅を広げます。地域に渡った支援体制を整えることで、子どもたちがより安心して成長できる環境を作ります。</p> <p>【サポート内容】 ・地域の福祉・教育機関との連携（学校・児童相談所・医療機関との連携） ・地域イベントへの参加（お祭り・スポーツ大会・ボランティア活動など） ・地域ボランティアの受け入れ（学生や地域住民との交流） ・企業・福祉団体との協力（職業体験や社会参加の機会の提供） ・地域の支援リソースの紹介（利用可能な行政サービスの案内）</p> <p>【目的】 ・地域社会と連携しながら、子どもたちの社会参加を促進し、将来の自立につながる支援体制を構築する。</p>	職員の質の向上	<p>質の高い支援を提供するためには、職員自身の知識・技術の向上が必要とされています。継続研修や実践、職員の専門性を高め、より良い支援ができる体制を整えます。</p> <p>【取り組み内容】 ・定期的な研修・勉強会の実施（発達障害・療育の最新知識の習得） ・ケースカンファレンスの実施（支援方法の共有・検討） ・外部研修の受講（他施設との連携や先進事例の学習） ・スーパービジョン・コーチング（経験豊富な指導者からのアドバイス） ・職員間の情報共有強化（定例ミーティング、記録の適正化）</p> <p>【目的】 ・支援の質を向上させ、子どもたちに最適な支援が提供できるよう、職員のスキルアップを実現します。</p>
主な行事等	<p>MJ合同イベントの開催</p> <p>2部の子ども達を中心に企画・運営を行う事で、様々な場面での達成感や自己効力感を感じると共に、それぞれの得意分野を活かして「仕事」として取り組む事で、将来の姿へと繋げて行きます。また、イベントの準備や運営を通して、職員や仲間との協力や意見交換をする事で楽しさややりがいを感じられる様に取り組んでいます。</p> <p>【取り組み内容】 ・年1～2回、地域の会場を借りて「文化祭」や「バザー」などを企画・運営します。 ・それぞれの得意分野を活かして「企画」「準備」「運営」の役割分担をして参加をします。 ・企画…コンセプトや予算を意識しながら、各種イベントの内容を考えて行き、企画書の作成・企画書のプレゼンなどを行います。 ・準備…制作物・ポスター作成・装飾作成 ・運営…受付やゲームコーナー、物販、ワークショップなどの運営</p> <p>【目的】 ・イベントを通して仕事の仕組みに触れる機会を作り、その中で自分の得意分野を活かして参加をする事で、達成感や自己効力感を得られる様にします。</p>		